

竹原管内景況調査

9月の景況DIは、製造業は好転、非製造業は悪化

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、令和7年9月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

調査概要

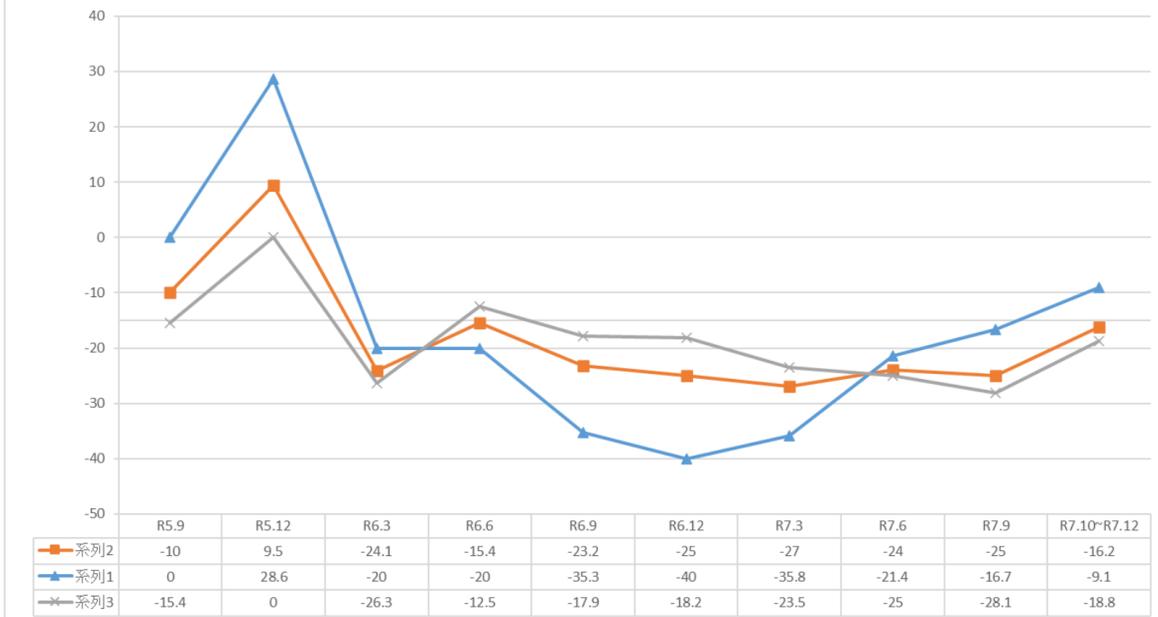
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
令和7年6月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	18	12
建設	8	6
小売	18	15
サービス	17	11
合計	61	44

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



9月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は4.7ポイント好転、非製造業は3.1ポイント悪化しました。

9月と比べて10月～12月までの見通しは、全体では、9.3ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

- ・市場の需要が減少している為。(日本酒)
- ・原材料の価格上昇が続くも、販売価格への転嫁を実施した。(精密機械)
- ・原材料仕入価格が上昇している。(精密機械)
- ・同業事業者の減少。(建築工事)
- ・災害復旧工事の減少。受注量、受注高の減少。(建設土木)
- ・民間の受注が増えた。単価も上昇した。(建築工事)
- ・物価高騰と、建築基準法の改正による影響と思われる。(建築工事)
- ・外国人観光客の増加はシティホテルや観光地ホテルにはプラスだが、ビジネスホテルでは恩恵が一部に留まる。出張利用の契約企業や旅行代理店経由の販売が多く、価格転嫁が難しい。また、人件費や光熱費の上昇が続くが、料金に十分に反映できず、売上は横這い感となる。外部要因として、2024年と2025年ではシルバーウィークの日並びが異なり前年より連休効果が得られなかった事と2024年9月は「全国旅行支援」の余波やインバウンド急回復でプラス要因があったものの、2025年はそれらの反動感もあり伸び悩んだ。(ホテル)
- ・外注費などの経費が上昇。(廃棄物処理)
- ・旅館部の売上が上昇。(旅館)
- ・子供の人数が減少している為。(写真館)

●トランプ関税の影響等、業界動向について

- ・米国関税の影響は少ないが、国際情勢の悪化が懸念される。(精密機械)
- ・ホテルのレストラン、宴会で使用する食材や包材資材も輸入品・輸入依存のものが多く、関税増でコストアップ。さらに旅行者が減るとF&B利用が落ち、飲食売上も圧迫される。コストが上がる一方で、宿泊料金をそれに見合せて引き上げる事が難しい市場である為、価格転嫁せず利益率が低下。特にビジネスホテルは価格競争が激しく、価格上昇に敏感な利用者が多い為、厳しい状況になると想定。(ホテル)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)